

第9回 地域フォーラム

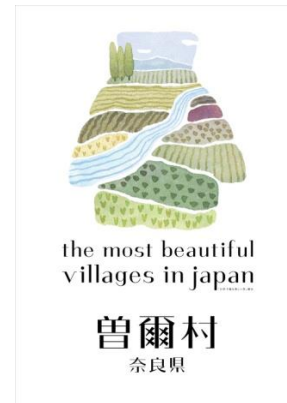
曾爾村発展ビジョン



「屏風岩公苑」



「曾爾高原」



日本で最も美しい村連合
ぬるべの郷 曾爾

令和2年2月2日

曾爾村長 芝田 秀 数

『曾爾村農林業公社』、設立へ

基幹産業の農業(トマト・ほうれん草・米)・林業

→後継者不足による産地縮小・価格低迷などから、衰退の一途

このままでは、里山風景が荒廃し、曾爾高原など年間50万人が訪れる
観光力の低下にもつながりかねない

創業比率がワースト40位→地域イノベーション→雇用の創出

平成27年度、1年かけ、村民・役場職員が何度も集まり、
「今、村ですべきことは何か」について議論



「曾爾村地域イノベーション創生総合戦略」(27年12月策定)
官民協働で村の課題解決に真正面から取り組む
「曾爾村農林業公社」を立ち上げる方向性を打ち出した。



平成28年6月24日 「一般社団法人曾爾村農林業公社」を設立
(設立者:役場、JA、森林組合、観光振興公社、農業委員会)

曾爾米のブランド化

湧き水や寒暖の差を生かした曾爾村の米は良食味だが、JAによる県域流通で「奈良県産」として販売され、付加価値を出しにくい

米価低迷(60kg1万円)、過疎高齢化で米の栽培面積は年々減少
【栽培面積】昭和45年 120ha→平成30年 44ha



「曾爾米ブランド化協議会」設立(平成28年4月)

■生産

- ・曾爾村の良質米を、より地球環境に配慮し、食味を重視した栽培へ
- ・山形県高畠町の生産者・遠藤五一氏の栽培指導を受けながら、100%有機質肥料使用、農薬も慣行栽培に比べ3~5割抑えた米づくりを展開

30年産は会員12人が約2haで「コシヒカリ」を栽培

■出荷販売

- JAライスセンターにおける粳すり・乾燥、色彩選別
- 農林業公社で精米・包装。食味値等に応じてランク分けし、有利販売する

ふるさと納税、百貨店、webなど、公社が多様な販路を開拓します



高原野菜の産地復活へ

冷涼な気候を生かし確立してきたトマト・ほうれん草の産地が高齢化で衰退



- ・地域おこし協力隊制度活用による農業後継者の育成
(平成28年4月～トマト2名、ほうれん草2名が移住して勉強。平成31年4月から自立)
- ・栽培方法の研究
- ・産地主導の価格形成が可能な販路の探索
※平成29年度から、奈良市内のフランス料理のオーナーシェフ10人で構成するNPO法人テロワールと提携。
→曾爾村で少量多品目栽培されている野菜を定期的に出荷。
相場に左右される従来型の市場流通とは違い、「曾爾産の野菜がほしい」シェフとの安定価格での取引を実現。
- ・高原野菜HP・QRコードの導入・ICT導入実験
- ・食の体験交流イベント(そにのわマルシェ)
- ・近畿大学との連携協定の締結



薬草プロジェクト

漢方とは、1000年近い試行錯誤や発展を日本で行なってきた独自の医学。漢方は日本の風土・気候や日本人の体質にあわせて発展。漢方薬の場合は1つの疾患を集中的に抑えるのではなく、体の全体を整えながら抵抗力を高める効果があります。

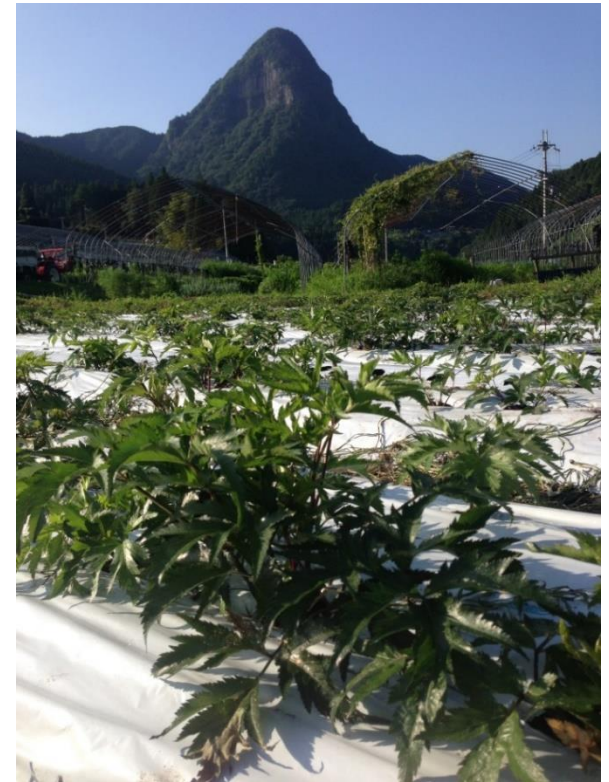


平成28年度から曾爾村でも大和当帰を栽培しています。化粧品・ビールなどへの応用を検討中。また、芍薬・ホップ・カヤの実等にも挑戦。

大和当帰(やまととうき)

根...婦人病に配合される代表的生薬
(当帰芍薬散など)

葉...当帰の風味を生かし、
料理や入浴剤などに使用可能



トウキ畑

地域イノベーション（塩井地区）

うるしの復興

- 曾爾村は「ぬるべのさと（漆部郷）」と呼ばれ、漆塗り発祥の地とされている。
- この歴史のある漆発祥の地曾爾村を絶やさぬよう復活を目指す。
- 曾爾村産のうるしの育成、植樹を行い、漆掻きも開始。
- 村の人も手軽に作れる漆芸品を作り、ものを丁寧に使い続ける大切さを発信
- 漆塗り文化・技術の伝承の拠点作り「ねんりん舎」平成29年度整備。
- 昔政庁が置かれていたとされる漆部造の整備



漆かき作業



漆芸品（葉のうつわ）



ねんりん舎の整備

地域イノベーション（小長尾地区）

ゆず加工商品開発

- 小長尾地区では、集落の活性化に取り組むため、平成24年から「幸せの黄色いゆず計画」事業に取り組んできた
- ゆずを産地化するため、遊休地に苗木を植樹、獣害対策
- ゆずを使った商品開発
ターゲットは、女性や健康になりたい方
- 小長尾地区の住民によって起ち上げた曾爾高原ゆず生産組合たわわが実施主体



曾爾産ゆず果汁
100%「ゆず搾り」



「ゆずぽん酢」
「ゆず胡椒」

地域イノベーション（葛地区）

米焼酎製造

- 曾爾村の米は、澄んだ空気と清澄な水で育つため美味しい
- 特産品のブランド米と、鎧岳からの湧き出る名水を使った米焼酎造り
- 焼酎には健康につながる効果もあり、晩酌を通して人と人の心もつなげる
- 葛地区の住民によって起ち上げた農事組合法人ゆめの里かずらが実施主体



〈米焼酎蒸留所の整備〉



〈焼酎の仕込作業〉

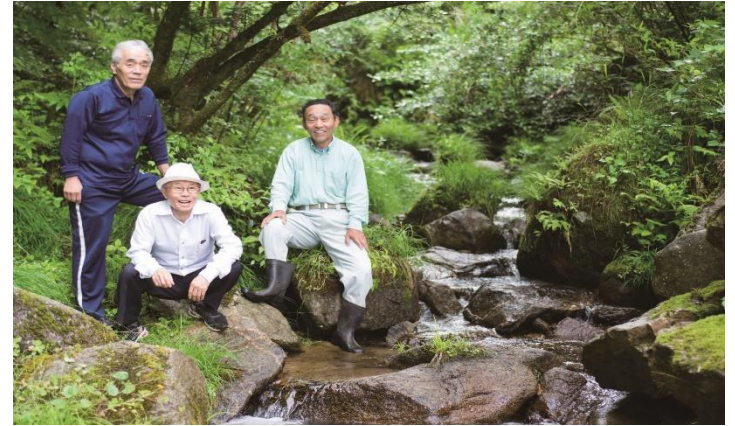


〈米焼酎 鎧岳〉

地域イノベーション（太良路地区）

曾爾高原の水

- 曾爾高原の水は、平成の名水百選に選ばれた
- 水の水質・水量だけではなく、親しみやすさや水源の保全管理等の文化的側面も
- 超軟水（硬度17度）で、お茶や料理（特に和食）によく合う
- 太良路名水研究会が実施主体として名水の販売事業を手掛けている
- 名水販売所の整備と、カフェを併設した休憩小屋の整備
- 玄米コーヒー・・・ノンカフェイン、デトックス効果のある健康注目飲料



〈名水自動販売機〉



〈玄米コーヒー〉

地域イノベーション（長野地区）

こんにゃくの生産・販売

- 山桜が咲き誇る屏風岩公苑の裾の長野地区では、平成28年12月に生産加工組合「びょうぶ山桜の郷」を結成
- 屏風岩からわき出る天然水、無農薬・無添加・自然栽培のこんにゃくの生産販売を開始
- こんにゃくを産地化するため、遊休地で栽培
- 男性はこんにゃくを栽培、そして女性は加工。みんな和気藹々と取り組む



〈こんにゃく作りの様子〉



〈手作りこんにゃく〉

その他の集落活性化の取組

山粕地区



伊勢本街道の整備

江戸時代のお伊勢参り街道の歩道整備



めだか 街道

様々な品種の高
級メダカの飼育
販売を通して集
落活性化

今井地区



クリスマスローズの会

横輪街道沿いに景観美
化のための花の植栽

伊賀見地区



曽爾街道風景づくり隊

遊休農地に藤袴を植栽
しアサギマダラ蝶の飛
来で観光客の誘致

葛地区



山笑会

遊休農地に水仙を植え、
美しい村の象徴となる
ような里山づくり

漆文化発祥の地からはじまる「山と漆(大和漆)プロジェクト」

〈現状〉

- ・奈良県内の文化財や塗師が使う国産漆の不足
 - ・曾爾村の漆植栽プロジェクトの停滞懸念(地域住民の高齢化)
- 一方で、
- ・地域おこし協力隊による漆復興プロジェクトの進行(H30-)
 - ・漆復興拠点「NENRIN」での漆作家の滞在製作がスタート(H30-)



「山と漆(大和漆)プロジェクト」の立ち上げ

- ・奈良の文化財を曾爾村の漆でまかなう
- ・漆関係者・育林ボランティアのプラットフォーム化し、曾爾村でのプロジェクトを地域住民と外部人材が協働で取り組む仕組みを構築
- ・国内外向け体験プログラムにより地域経済を活性化
- ・具体的には右の事業を展開



育林ボランティアの輪



多彩な協力者の輪(阪本修氏、北村昭斎氏、堤卓也氏)

漆の森づくり

奈良の国宝・重要文化財や漆器生産の一部をまかなう育林システムの構築

- 植樹(年間200本程度計画、15年目採取)
- 育苗(生分解性コンテナ試験)
- 育林ボランティア人材の確保・運営スキーム

漆の担い手づくり

一度は絶滅してしまった漆に関する技を曾爾の地に蘇らせるため、新たな産業の担い手を育成

- ・漆掻き師、漆塗り師、木地師の育成
- 「塗師・イン・レジデンス」、漆器づくりWS
- 漆専攻学生交流合宿

漆の産業再生

・葉の器を始めとする曾爾産漆のプロダクト開発、漆を使った家具等のリメイク事業、ブランディング

・奈良県の川上・川下が共存共栄し、産業として成り立つ生漆の流通(買い支え)モデルの模索

- 中長期計画作り、ロゴデザイン、HP作成



これらを地域ぐるみでバックアップできる機運の醸成

・漆に親しむ機会の創出(学校・食堂・家庭・役場での啓発)

- 漆器の貸し出し、小中学生・住民対象の課外講座

農産加工場のシェアキッチン化



① 現在の加工場 ② シェアキッチンイメージ



《現状》 好立地も活用できず衰退／「使いたい」ニーズはある
約30年前に開設し、蒟の佃煮や桑の実ジュース等を製造していた村農産加工場だが、使いたくても特定の人しか使えず、十分に活用されていない。



《概要》 食を中心としたにぎわい・学びの場として再生
十分に活用できていない農産加工場をリニューアルし、地域住民などが自由に集い、商品開発・製造したり料理教室などができる製造許可付きシェアキッチンとして再生する。

| | | | |
|------------------------------|----------------------|---------------------------|---------------------|
| ケチャップ・ ジュース・菓子 等加工品づくり | 惣菜・弁当 の配食 サービス | 郷土料理教室 加工体験ワー クショップ | 体験ツー リズムと の連携 |
|------------------------------|----------------------|---------------------------|---------------------|

| | | |
|----------------------------------|----------------|----------------|
| ROOM1 瓶・缶詰 | ROOM2 菓子・パン | ROOM3 惣菜・弁当 |
| SHERE ROOM 料理教室・体験ワーク ショップ | | |

玄関

《期待できる効果》

- ・女性農業者や移住者の副業の支援(女性活躍・移住促進・六次産業化)
- ・村ならではの土産物のレパートリー増(観光客の満足度向上)
- ・高齢者向けの配食サービス等、新たな地域ビジネスの創出
- ・地元の食材を使った料理・加工体験のプログラム化で魅力的な観光コンテンツが増加
- ・これらの実施を通して地域資源(地域価値)が見直される

地元素材を活かしたインバウンド地域創出事業

《現状》

・訪日観光客の急増

5年後に訪日観光客による宿泊数が日本人観光客の宿泊数を追い抜くとの推計

・村内で英語対応可能な滞在拠点も

昨年秋には、古民家を改修し農村体験が楽しめるゲストハウスが、本年5月に曾爾村の食材でもてなす1日一組限定のオーベルジュなど、英語対応が可能な複数の滞在型拠点が立ち上がる

・オーバーツーリズム問題(京都市街、沖縄宮古島)

観光客が殺到して地元住民が住みづらくなる状況



量ではなく質の高い観光地域づくりが不可欠

《方向性》

曾爾村の文化や暮らし・食を体験できる

サステイナブルツーリズム(持続可能な旅)を提供できる地域へ

《ターゲット》

・FIT(少人数)+教育プログラム

《具体策》

奈良県内でも有数の観光交流資源を有する曾爾村において、インバウンド向けのオペレーション窓口や里山ガイド、観光商品づくりの体制を、宇陀市のインバウンド向け旅行社「Village to Table Tours」と連携して整える。10月以降、ガイド育成と並行してair bnbを活用しトライアルツアーを実施し、実践力を高めていく

《事業概要》

■里山ガイド育成

■プレイヤー育成(宿泊・飲食業者のスキルアップ)

■インバウンド窓口拠点のプロデュース(会社立ち上げ・雇用の受け皿)

■地域素材を生かした交流型観光商品の開発

■インバウンドHP・案内板製作

《見込める効果》

■ガイドや旅行業を仕事にして生活できるレベルに引き上げ、雇用を創出

■宿泊・飲食業のインバウンド受け入れによる新たな経済効果

■農家など体験受け入れによる新たな経済効果

森林資源活用プロジェクト構想

豊富な森林資源の活用

健康増進プロジェクト

- ・森林セラピー
- ・森林ヨガ

エネルギープロジェクト

- ・木質バイオマスエネルギー活用

森林学校プロジェクト

- ・森のようちえん

大人も子どもも遊ぶプロジェクト

- ・マウンティングバイク
- ・アスレチック
- ・ツリーハウス

森林資源の活用プロジェクト

製材所の復興



- ・家具玩具の制作
- ・角材などの有利販売

プロジェクト構想の推進方法

このプロジェクトは、屏風岩公苑及び公苑から東裾に広がる150haの村有林を活用し、概ね杉、檜で構成された山林で所々に広葉樹林が点在しています。多額なハード整備をせず、地形、樹木を活用することを基本としますが、駐車場やアクセス道の整備は必要と考えてます。

□平成28年度基本計画の策定

有識者、住民、関係者などでワークショップを進め、プロジェクトの基本構想を策定

□各プロジェクトの人材確保又は育成

各プロジェクトを進める人材の確保又は育成が必要

□このプロジェクトを進める手順

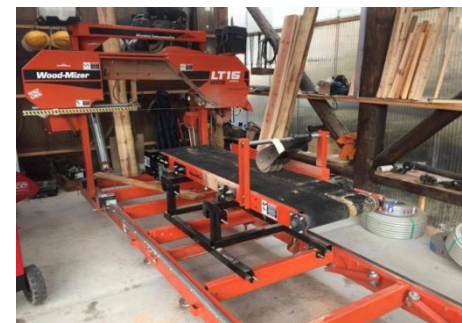
①広葉樹を残し、杉檜を伐採搬出するための作業道を開設させる。

搬出した木材を

→製材所を復活させ、搬出された杉檜を板、家具及び玩具などに加工する。

→若者住宅の建設材料に加工

→薪の販売、薪ストーブなど再生エネルギーの推奨



搬出作業道を

→マウンテイングバイクのコース

→森林浴のコース



②豊富な森林資源

杉、檜を広葉樹に林種転換しながら、次の健康増進プロジェクトなどを進める。

→村内の森林浴の拠点に位置づけ、

曾爾高原コースなどを順次増設させる。

→木漏れ日の中、森林ヨガを楽しみ、

温泉、鍼灸なども活用して森の湯治場

として活用

→大人も子どもも楽しめるレジャー施設の整備

アスレチック

モバイルキッチン

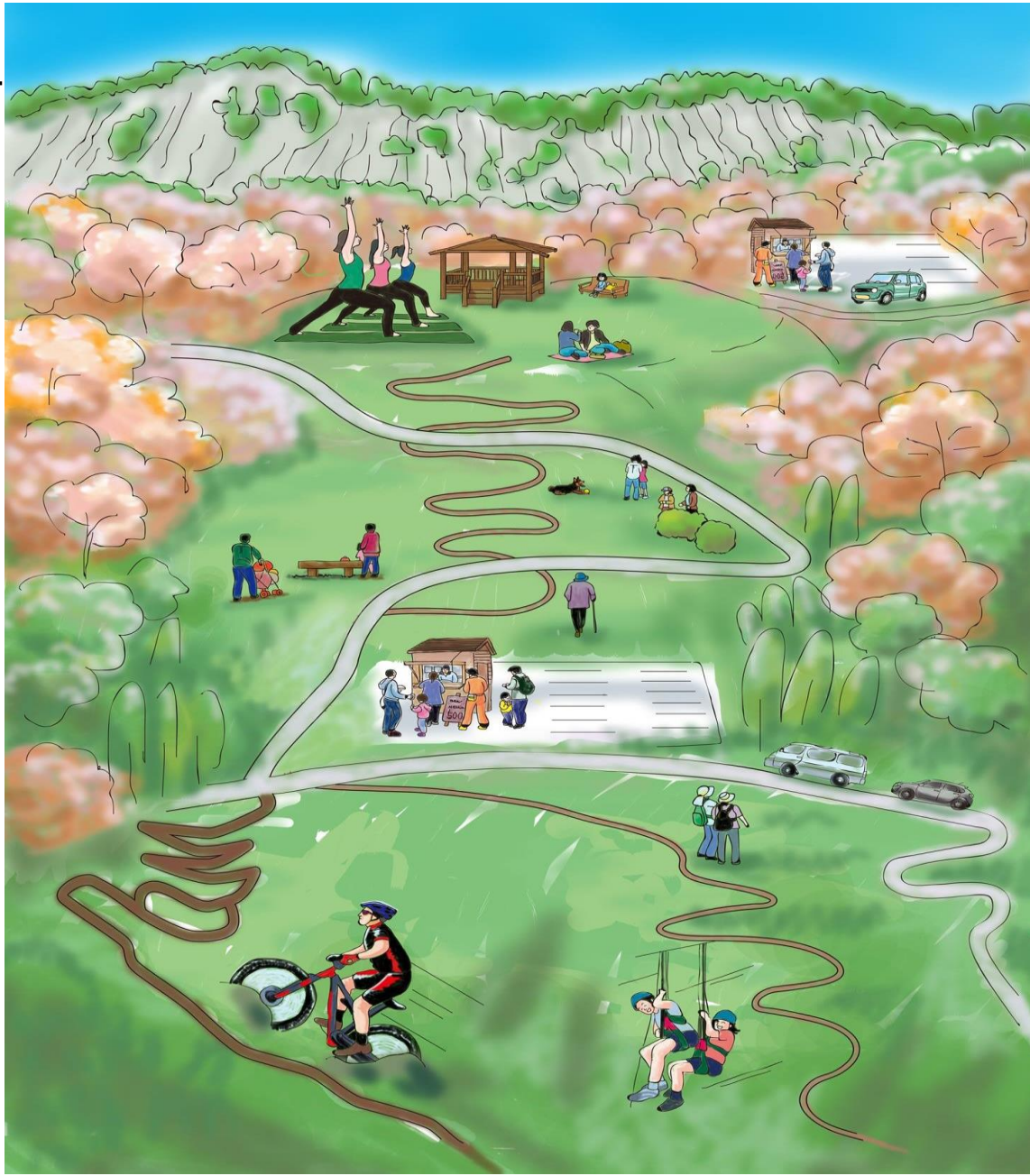
→森の学校

大工、家具職人、伐採技術を習得

させるなど人材育成



イメージ図



地域おこし協力隊の積極的な受入

若い力を発揮し、新風を吹かせてくれる地域おこし協力隊を平成26年度から受入中。

- ・現役生：4期生（H29年度）3名、5期生（H30年度）1名、6期生（R1年度）1名 計5名
- ・卒業生：1期生（H26年度）3名、2期生（H27年度）1名、3期生（H28年度）10名 計14名



曾爾村地域おこし協力隊

※卒業生14名のうち、9名が曾爾村に居住し、活躍中！

現在の部門別活動状況（現役生、卒業生含）

農業4名

ほうれん草農家、トマト農家指導のもと、農業経営を学ぶ。新たな農業の挑戦

林業4名

自伐型林業で山を守る林業家、森林組合で林業経営家を目指す。

地域ビジネス2名

集落に入り込み、地域資源の掘りおこしで新たな地域ビジネスの創出

観光2名

観光協会でのPR、観光振興公社での特産品ネット販売

農林業公社2名

農林業公社の企画・運営。農産物ブランド化研究

ご清聴ありがとうございました。

奈良県

曽爾村

「 鎧 岳 」